

1  
ブ  
ラ  
ン  
ド

16  
7

REEL No. 1-0198

0008

物行体

要再回

文書課長 文書課 長 検印

大正八年拾月拾壹日接受

大正八年十月九日起草  
同一年十月十三日附

送第 號

主任 第一課

政務局長 大正八年九月廿三日  
主任

芝沢政務局長

東洋汽船會社社長 宛

有松益、沼津祥一為年度慶祝  
陳名蓮夫人 J.O.P. Blumy 氏夫妻

近々本に出費米玉の種ニ本館及

支那、東亞之了、お事り本年

中甸 桑港岩山向之更ニ

一月末(己卯)得廿四日(二月初)本部要  
有 中甸

為、桑港ニ向、答、有、外、付、

今長夫妻、加、右、経、後、貴、社、汽、船

ニ、船、定、山、半、信、送、出、融、金、正、急、金

長、電、報、部、分、有、外、付、以、年

海書課 長 検印

備、解名及、出、納、額、口、打、込、  
口、報、表、控、左、右、及、以、出、納、額、中、進、行

勢、了

進、行、形、態、に、對、し、來、解、済、金、を、以、て、支、拂、  
支、拂、可、能、性、を、以、て、合、理、に、考、察、す、べ、し、と、考、へ

付、添、付、也

外務省

附屬書類添附

受35080

第八  
三〇八  
號

郵務

第  
一  
課

東洋汽船株式會社

外務省政務局

御 中

東洋汽船株式會社  
東京船客係

拜 啓

客月十八日附ヲ以テ芳澤貴局長へ弊社淺野理事ヨリ御回答申  
上置候ブラント氏及夫人來ル十二月四日桑港出帆春洋丸壹等  
御乗船室ノ義ハ別紙ノ通り同船第百二十二號室全部保留仕候  
段以電報申越候間何卒御諒承被成下度右御通知申上候

大正八年十一月十四日

敬 具

名目

TOYO KISEN KAISHA

ASIAN DIRECT

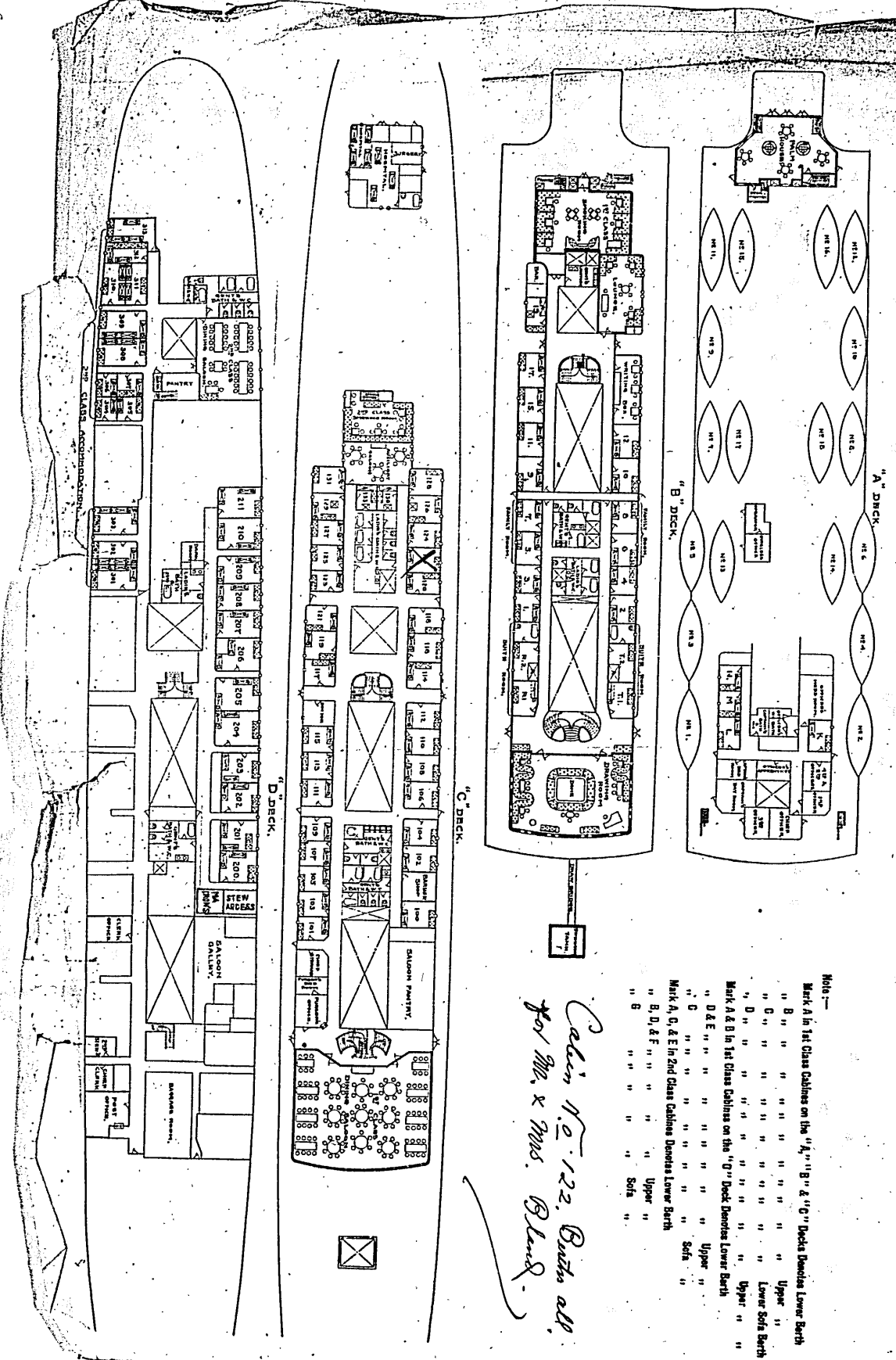
TELEGRAM RECEIVED from San Francisco.

No.	Address.	ORIGINAL.		RECEIVED.		Toyo Code.	By:
		Date	Time.	Date.	Time.		
24	F.R.R. Tokyo.	1/11/19		10/11/19	5:55 A.M.		

No. 1. 1st November  
 (stop) Shingo Maru December  
 reserving entire  
 No. 122 account  
 stand.

# CABIN PLAN

THE TOYO KISEN KABUSHIKI KAISHAS TRIPLE SCREW TURBINE STEAMER  
**SHINYO MARU**  
 LENGTH 550'-0" x BREADTH 63'-0" x DEPTH 38'-6"



Note—  
 Mark A in 1st Class Cabins on the "A," "B" & "C" Decks Denotes Lower Berth  
 " B " " " " " " " " " " " " " " Upper "  
 " D " " " " " " " " " " " " " " Lower Sofa Berth  
 Mark A & B in 1st Class Cabins on the "G" Deck Denotes Lower Berth  
 " D & E " " " " " " " " " " " " " " Upper "  
 " D " " " " " " " " " " " " " " Sofa "  
 Mark A, G, & E in 2nd Class Cabins Denotes Lower Berth  
 " B, D, & F " " " " " " " " " " " " " " Upper "  
 " B " " " " " " " " " " " " " " Sofa "

*Cabin No. 122, Berth all  
 for Mr. & Mrs. O'Leary.*

電信局長

水川

大正八年十一月

大層 晴

政務局長 門

第一

電送第九五〇  
大正八年十一月十日

次友桂 在桑港

内田大臣

太田總領事

中八一

蓮玉人 J.C. Bland

久資支那 在函之對支意

見ハ各方面ニ於テ在高等教ヲ

受ケ居ルモノナル也今回、タイム

以通信員トシテ夫人同律

桑港ヲ經由シテ本部及支那、

未遊スルニト、有奉リ先ニ付テ

ハ希玉、支那問題、對スル

立場ヲ宜シク爲シテ通信

ヲ利用スルニト、極ナリ有益ト

考、レレ、新田大使及小田切、前  
ヲ、全長ト、百、既、右、事、諒、解  
ヲ、有、ス、レ、決、者、ナ、リ、右、付、公、女、夫  
妻、ノ、爲、ノ、十、二、月、日、早、地、差  
看、洋、丸、ニ、船、定、リ、保、函、シ、テ、  
候、儀、特、乘、船、券、ヲ、差、付、ス、ル  
標、(船、後、)内、密、本、者、ニ、於、テ、  
支、弁、ノ、答、)在、洋、商、船、本、社、ト、  
官、ニ、打、合、儀、十、五、日、元、半、右、ニ、於、テ、  
モ、右、以、合、ノ、上、半、地、合、社、支、店、ト、  
然、レ、シ、テ、打、合、オ、チ、事、成、リ、方、ニ、  
本、局、在、米、大、使、及、在、經、商、總、領、事  
ハ、年、考、ト、シ、テ、特、定、マ、リ、及、シ

外務省



電信課長

大臣

次官 法

政務

通商

條約

人事

會計

文書

西経援

六九六  
七〇一  
桑港宛

大正六年十月三日

田外務大臣

太田総領事

第一九〇號

在英大使宛 貴大臣宛

第五〇三號

貴電第三九六號 閣下往電第四五八

號 申取ノ通 本人渡米後ナル処 船室

留保 閣下ハ 在英ヨリ 在桑港 総領事

問合ス様 申聞ケ有ルニ付 同 総領事

8/29

シテ 轉達 セシナラシ。 貴電第三九六號 在桑港 総領事 轉電ス。

971a

以方

電信局長

字

大正八年十月二十日

政務局長

字

第一課

字

在聖港

内田大臣

太田總領事

第八七號

往電方八十一号三回之船定保

留一及在候乘船差力差り

外務省

スノキ首 Bland 長、特許方也

ルノノ所配属者未成

形計ハシ

電話第九七一號  
大正八年十月二十日

六九六  
七〇一  
桑港  
本署

大正六年十月十日 三三五

内田外務大臣

太田総領事

第一九〇號

在英大使宛 貴大臣宛

第五〇三號

貴電第三九六號 閣下 往電第四五八

號 申取ノ通 本人渡米後 十ル処 船室

留保 閣下 在 桑港 総領事 問合 様 申聞 有ルニ付 同 総領事

為念  
幸甚  
此  
電

シテ 轉達 セシメラシタシ。

貴電第三九六號 在 桑港 総領事

へ 轉電ス。

暗  
倫敦 1870年七月  
右有署名  
主筆

日外務大臣 林 大侯

第九九號

英信  
P. Brand は従来より帝國に對し好意ヲ有し其著書又ハ新聞雜誌等に對し稿ニ東亞政局ニ對スル評論が帝國ニ對シ方カラス利益ヲ興ハ居ルコトハ閣下ノ風ニ御知悉ノトニ有之同ク之類ニハ日露戰爭ノ直後帝國政府ヨリ勸告ヲ授ケラルコトナリ居ルハ實ニ遺憾

同ハハライムスニ關係アリ之ヲ愛スルヲ得テ今ヤライムスニ關係ハ直ニ接ト言フコトアリ從テ之ヲ愛ス得ルキ地位ニアル英國ニ於テハ白皇太子殿下ノ御系遊下力又ハ戰爭ニ依ル勳功トカ筆持別ノ事情アリコトヲ知レバ英國臣民カ外國ヨリ勸告ヲ授與セラルコトヲ許サズカレハ故ニ同クニ對シテ勸告ヲ授クルコトニ同クシテ帝國側ニ引著ケ置ル一方法ルニ帝國側ニ於テ同クノ之ヲ愛スルヲ許サズカレキヤモ難キニ此際帝國ト同クノ關係ヲ數不キ置クノ意ハ味

ラ以テ同クヲ滿鐵囑託其他ノ各官ヲ  
以テ當地ヨリノ往返其他ノ旅費ヲ合  
メ一年ニ男因乃至ニ男五ノ内位ヲ供シ  
何等西靴東ヲ受ケル自由ノ觀感不ラ  
許シ但右觀感ノ結果ハ帝國側ニ於  
テ之ヲ自由ニ利用シ得ルコトノ條件ヲ以テ  
一年ノ豫定ヲ以テ滿洲其他ノ支那ヲ旅行  
セシムルコトニ此際即チ該相成ルコトハ  
アリキヤ右章ノ御意知ラ得ルニ於テハ  
右ノ際ニ同クニ交渉ヲ切ラシ但右ノ同  
人ノ話ニ多ク於テ第一ニアラフ同ノか受  
諾スルヤ否ヤハ未定ナリ。

大正

次下性

在英

林大佐

大正

新長

才四六五号

電送第六二九一號  
大正十一年八月二日

半電才八九号

五里

先手末然へヤ 才法ニヨリブランドニ電報

昨日

おのれに 如似スに財援ヲよヘントシタニ

水

件ヲ控院ニ申 変了今回ハ半電才

外務省

申交才ニ付 文不感銘スヘキ義ト代スモ

従来ノ終極ニ成リ来スニ成ハレ之ヲ交送セザル

ク此ノ時ハ再ニノ事ニモツリ 却テ向カラス

ノ余地トト也

印系ノ事トシテ 印系ノ事トシテ

ブランドノ 好意ヲ報答キ五ク

人トシテ 快ク人ヲ引付

今一知作

考案煩コレタニ

秘

倫敦發 二十七年七月  
古者著 二十七年七月  
主著

田外教大任 林 大任

第九九號

Dr. Brandt の從來より帝國に對  
し好意のヲ有し其著書又ハ新聞雜誌  
等に對し稿を呈し東亞政局に對し評論が  
帝國に對し少カズ利益ヲ興へ居ルコトハ  
閣下ノ夙ニ御知悉ノトモ有之同く之ヲ  
こトハ日露戰事ノ直後帝國政府ヨリ  
勲章ヲ授ケラルコトナリ居ルルモ當時

同くハ「タイムズ」ニ關係アリ之ヲ愛スルヲ  
得アリシモ今ヤ「タイムズ」ノ關係ハ直  
接ト書クニアラズ從テ之ヲ愛ス得ル地  
位ニアルモ英國ニ於テハ白米子殿下ノ御系  
遊トカ又ハ戰事ニ依ル勲功トカ等特  
別ノ事情アルコトヲ知レハ英國臣民カ外  
國ヨリ勲章ヲ授與セラルコトヲ許サズ  
カレカ故ニ同くニ對シテ勲章ヲ授ルルコ  
ト同クシテ帝國側ニ引著ケ置ル一方  
法アルモ帝國側ニ於テ同くノ之ヲ愛スルヲ  
許サズ也カレキヤモ許シ難キニ此際帝  
國ト同くノ關係ヲ整不キ置ルノ意ハ味

ラ次ニ同クヲ滿蒙諸國に於テ其地ノ名義ヲ以テ當地ヨリノ往返其他ノ旅費ヲ合メ一年ニ男内乃至之乃五年内位ヲ供シ何等西籍東ラ受ケル自由ノ觀望ヲ許シ但右觀望ノ結果ハ帝國側ニ於テ之ヲ自由ニ利用シ得ルコトノ條件ヲ以テ一年ノ豫定ヲ以テ滿洲其他ノ支那ヲ旅行スルルコトニ此際即令ニ相成ルコトトシテキヤ右章ニ所載知ラ得ルハ右ノ際ニ同クニ交渉ヲ行ハシメ但右ノ同ノ内話ニタル次第ニアラズ同ノか受諾スルヤ否ヤハ未定ナリ。

電信課長

大臣

次官 桂

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

11/21 倫敦 大正十年八月五日台一〇一  
 本着着 主持  
 第九〇八號  
 内田 外務大臣 林 大使

貴電四〇五号ヲアランドハ本年一月以後約四五ヶ月支那漫遊ノ希望ヲ抱ケリト察セラレ由アリ右旅行ノ補助ヲ我ヨリ快ク受クキヤハ同人ニ本使ヨリ問ヒ試ミタルコトナキヲ以テ其意中ハ義和セカルモ帝國政府ニ於テ其意アルニ於テハ本使加同人ニ之ヲ申学ケルニ於テ何等面白カラサル所象ヲ與フマシトモ存セズ且ツ明年一月過ギトアハ特ニ時機ヲ得サル



懸念アリトモ思ハレガレガルガ如キモ先以テ帝國政  
 府ノ御意御存セザルハ如何様ノ取計モ取  
 兼ヌルニ付同人ノ好意ヲ繋ギ置クコトニ御  
 同感ナルニ於テハ改テ依リテハ三万圓(三〇〇  
 〇〇)内外滿州鐵道視察等適當ノ名  
 義ヲ以テ同人ニ贈與可成或後内意ノ所  
 俾電示ヲ得タシ

電信課長

大臣

次官 桂

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

三九四  
 晴

倫敦 大正十年八月一日前午

内田外務大臣

林大使

第九一四号

往電第九〇八号ニ因シ

四日ブランド未訪當國主要ナル新聞近時ノ傾  
 向トシテ太平洋問題ニ最重要ナル支那ノ實況  
 日本及英國側ノ利害關係論ニ掲載ニ躊躇スルノ風  
 アリ其然ル所以ハ尙未懸念ニ外ナラザル所斯ク  
 ノ如クシバ例ノ「ド」シニアソシ一派ノ支那  
 論ノ其間ニ流布シテ或ハ引イテ華府會議ニ  
 其影響ヲ及ボシ折角ノ會談ヲシテ所期  
 ノ成功ヲ收メズレテ終ルナキヤ頗ル憂フベキモ

ノアルヲ以テ本使ニ於テ同意ナルニ於テハ自介  
ハ約一ヶ月位ノ予定ニテ會議開催約二週間前渡  
米シ同國新聞記者間ニ意見ノ交換ヲ試ミシテ  
ノ内々ノ希望ヲ有スル次第ヲ述ハル所アリ本使  
ハ右ハ甚ダ我レニモ好マシキ思付キナクトシテ  
取リ敢エズ賛意ヲ表シ置キタルガブランド所  
ノ傾向ハ當地及米國新聞界ニハ現存スル所ニシテ  
米國ニ於テハ更ニ其外レキモノアラシカト察セ  
ラル處在米大使ニ於テ不同意ナキ事ト存ゼラル  
ルニ付同氏ニ此際往復旅費並滞在費用トシテ英  
債一千五百磅ヲ支給シ同氏ノ行動ニ付何等ノ束  
縛ナク會議開催前米國ニ於テ同氏ヲシテ自由ニ

運動ヲ試マレムル事最モ然ルベト思考ス右幸  
ニ御賛成ヲ得ベキニ於テハ若シ萬一同人ニ於テ  
受領ヲ好マザル場合ハ本省へ返付スベキニ付取  
リ敢エズ前記金額電送ヲ請フ尚右旅費支給ノ儀  
ハ同人ニ於テ本使ニ對シ拒絶スルガ如キ事之レ  
ナレト信ズベキカトアルヲ以テ茲ニ申進スル次  
弟ト御承知ヲ請フ

在米大使へ轉電セリ

情報部長

三四九  
暗

内田外務大臣

林大使

主情

情報部次長

往電第九〇八号ニ因シ

四日ブランド来訪、當國主要ナル新聞近時、傾

向トシテ太平洋問題ニ最重要ナル支那ノ實況

情報部第三課

檢

日本及英國側ノ利害論ニ掲載ニ躊躇スルノ風

アリ其然ル所以ハ對米懸念ニ外ナラザル所斯ク

ノ如クシバ例ノ「ミラー」ド「シンガポ」ニ一派ノ支那

論ノ要聞ニ流布シテ或ハ引イテ華府會議ニ

モ其影響ヲ及ボシ折角ノ會議ヲシテ所期

ノ成功ヲ收メズレテ終ルナキヤ頗ル憂フベキモ

多事  
送金  
米トス

ノアルヲ以テ本使ニ於テ同意ナルニ於テハ自介

ハ約一ヶ月位ノ予定ニテ會議同催約ニ週間前渡

米シ同國新聞記者間ニ意見ノ交換ヲ試ミン乎ト

ノ切々ノ希望ヲ有スル次第ヲ述ハル所アリ本使

ハ右ハ甚ク我レニモ好マシキ思付キナリトシテ

取リ敢エズ賛意ヲ表シ置キタルガブランド所述

ノ傾向ハ當地及米國新聞界ニハ現存スル所ニシテ

米國ニ於テハ更ニ甚クシキモノアラシカト察セ

ラル處在米大使ニ於テ不同意ナキ事ト存セラル

ルニ付同氏ニ此際往復旅費並滞在費用トシテ英

債一千五百磅ヲ支給シ同氏ノ行動ニ付何等ノ束

縛ナク會議開催前米國ニ於テ同氏ヲシテ自由ニ

運動ヲ試マシムル事最モ然ルベト思考ス右幸  
ニ御賛成ヲ得ベキニ於テハ若シ萬一同人ニ於テ  
受領ヲ好マザル場合ハ本省へ返付スベキニ付取  
リ敢エズ前記金額電送ヲ請フ尚右旅費支給ノ儀  
ハ同人ニ於テ本使ニ對シ拒絶スルガ如キ事之レ  
ナレト信ズベキカドアルヲ以テ茲ニ申進スル次  
弟ト御承知ヲ請フ

在米大使へ轉電セリ

△ 之情報部知事 11500 (暗)

本省着 大正七年八月 十日 九一五

吉田 七

内田外務大臣 吉田臨時代理大使

重信(一三四) 第九元幣

貴電合第第二〇六號、趣旨ニ基キ「タイタス」記者が四日、紙上ニ「Chaos of China (from a

Japanese correspondent)」ト題スル所論ヲ

掲載シタルガ之ニ關聯シ「インフレーション」及「ブランド」

等ニ大要別電(第九三〇號)ノ通り、廿日及廿日

紙上ニ議論ヲ交フルニ至レリ。不取敢

尚ホ「インフレーション」引用ノ諸收入及貿易額等ニ

関シ本件論駁ニ必要ナル資料當方參考迄  
ニ市電報ヲ請フ。(九日)

11491 暗

恫致發 本海着

大正十年八月十日

主筆

内田外務大臣 吉田臨時代理大使

九月三〇号

大日本郵政省

貴邦の中央政府に於ては、  
鹽鐵道郵便電信等、主要收入の國庫に  
中央政府の權力の完全を行はば、本年度の該  
収入は、概一億弗、鹽九千萬弗、鐵道九千  
萬弗、郵便九千萬弗、電報九千萬弗、  
トナルベシ。所謂亂狀、  
外國貿易減退

X

スト言フ、誤ラナルハ、國稅報告ラ一見セバ、明カナル  
ベシ。今年度、外國貿易ハ、三十億弗ニ達スベク  
銀貨、最モ高カリ、且一年及一九二〇年ノ凌  
グ事、毎トスルモ、所謂亂狀状態ハ、却ラ  
(不明)ト稱スルニ足ル。領事裁判權問題  
關シテハ、支那ハ、十五年後、其ノ法制完備上  
チララハ、其ノ撤廢ヲ求ルモ、非ズ、日本ハ、其ノ  
北京政府ト稱スル腐敗セル朋黨ヲ助ケ、其  
ノ先キニ使用セル者ニ借款契約ノ名ノ下  
ニ數億圓ヲ貸ヘ、  
シテ支那空前ノ分裂  
ヲ招来セリ。日本ノ支那ヲ賤セントスル努力  
ハ、漸次明ニナルモ、公平ナル、  
此判ハ、太平洋

會議、日、特、他、國、干、渉、ヲ、排、シ、テ、支、那、ヲ、  
混、乱、状、態、ニ、放、任、シ、置、テ、過、去、十、年、間、ニ、於、テ、  
ル、知、リ、其、貿、易、ヲ、發、達、セ、シ、ム、ベ、キ、ヲ、云、フ、  
シ、テ、英、蘭、印、反、駁、  
シ、ン、プ、ソ、ン、氏、ガ、支、那、現、狀、ニ、對、ス、ル、日、本、通、信、員、  
ノ、穩、健、中、立、オ、ル、記、事、ヲ、反、駁、セ、シ、ト、ス、ル、ハ、支、那、  
ノ、現、狀、ハ、固、然、ス、ル、所、存、ク、中、央、政、府、ノ、勢、力、ハ、  
備、然、ト、シ、テ、存、ス、ル、證、據、ハ、過、去、十、年、間、ニ、於、テ、  
外、國、貿、易、ノ、發、達、ニ、在、リ、ト、言、フ、ニ、歸、着、ス、  
果、シ、テ、然、ラ、バ、華、府、會、議、ノ、必、要、ナ、シ、

一續之

11499 (平)

倫敦發  
本者著

大正十一年八月  
廿九日

七下  
三頁

内田外務大臣

吉岡臨時代理大使

第九三〇號 其(二)

Chamberlain 氏ノ支那貿易ニ對スル樂觀ハ五  
 種ニ要收入ガ本年年度ニ於テ三億千二百万弗  
 ニ上ルナラントノ散漫ナル假想ニ基キ進ニテ貿易  
 額ハ三十億弗ニ上ラント断定セルモ是レ統部ニ  
 非ズ單ニ見積リノモ。今假リニ之ヲ信憑得  
 ベシトスルモ尙ホ其ノ五五ト資源ノ大ナル比ニ其ノ  
 額ハ著シク小ナルヲ發見カサルヲ得ズ。是レ過奇ニ  
 於ケル支配階級ノ頑迷固陋ナリシト革命以後

X

ニ於テ中央政府ノ世力ナリシトニ起因ス。

民ハ日本ガ腐敗セル朋党ヲ撥ケルヲ述ベ具  
 現北京政府ノ全然之上異ナルトヲ説クモ予ハ  
 該朋党ガ千九百十七年張勳ノ復辟ヲ防止  
 スルニ當リシニ其ノ "Semi-official statement"

of China's case to the world "中於テ却  
 テ所謂朋党尤モラ稱讚シ且ツ現北京政府  
 ニ孫逸仙派ハ之ヲ目シテ日本ヨリ借款ト  
 補助金トシ生クル者トセリ。要スルニ民ノ中央  
 政府トハ幻想ノミ。試ニ之ヲ排日系ニ屬スルノ  
 長キヤイナ。デリーニユエシ。六月十六日杜地ヲ  
 引カシ。支那ノ組織ニ政府ハ全ク其ノ跡ヲ



断テリ。今あ那ヲ支配シ居ル者見テ者必  
代表者。非ズ。而シテ彼等ハ支那ヲ破産  
道すクモイヤリ。云々。

REEL No. 1-0198

0032

電信課長



(皮號用紙)

情報部長

情報部長

第三課



第二課



在英

林大使

外務省

次官

第四七八號



至名  
松中

貴電第九一回號「ブランド」長後米、件出  
察候、松意、候、人ト、目、候、道、下、レ  
旅費、及、常、至、英、信、者、外、五、石、磅、ハ、後  
米、確、定、一、上、原、送、三、レ、  
(ウラ、)

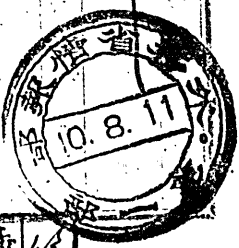
外務省

要再回

在米大使、轉電、ア、知、シ

電送第六五三三號  
昭和十一年八月二十日午後四時五分發

情報部長  
 情報部次長  
 亞細亞局長  
 電信課長  
 情報部第部  
 内田外務大臣  
 林有便  
 中島電報局長  
 合共二〇分  
 其以前段  
 及に連なり其  
 電送第 6565 號  
 大正 10 年 8 月 11 日



REEL No. 1-0198

0034

出  
 慶三世見し廿七箇箇ノ手紙  
 コノ世間ノ因知セタムノ様申  
 進ノミハ次世分ノ慶三世ノ御  
 シラタイカシ紙上ノ御更  
 (From a Japanese Correspondent)  
 ト記シテハ斯レニ我カノ旨  
 信スレトシテ認ムルノ慶三ノ  
 ナリテ其ノ支那ノ威徳ヲ

批撥スルノ結果ヲ素ニ好ムシカ  
 ラス従テ牛上シテ4フソシ  
 ドト間ノ以テ戦ヲ熾ルカ如キ材  
 料ノ供給ハ之ヲ他日ノ機會ニ  
 譲ルコトノ致ガシテ右ニは素知  
 アリ度尚ホ今後ハ精々は恒  
 正其ノアノレトシテ大布  
 並置ス

(信濃守の七ヶ考久考ト云)

信濃守

...

...

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

11920

11920 (暗)

倫敦著

本年八月

十九日

王場

内田外務大臣

林大使

第九五二號(極秘)

貴電第四七八號(閣)

「ブランド」愛蘭地方旅行先より書面ヲ寄

セ支那肉類ニ對スル米玉輿論ニ最近幾

分覺醒ノ様運ニ向ヒ居ルヤニ察セラルルモ華

府會議ニ際シテ「ブランド」一派ハ依然日英

同盟非繼續ノ運動ヲ試ムベキ付會議前

渡米ノ上米玉輿論が同氏一派ノ議論ニ動カ

サレザル様其ノ素地ヲ作シ努力ヲ試ミタクナ

係

一月二十日頃迄ニ帰英ヲ必要トスル用件ヲ差  
控アルモ九月末ヨリ渡米ニ得ルキ都合ナリト  
申来レリ。右ノ為第ニ本使帰任後未ダ  
面談ノ様ヲ得ズ書面ニテ意ヲ傳タルモ本  
件性質上面白カラサルニ付同氏帰来ヲ待テ  
幸ニ廿三日頃本使素訪ノ答ニ付其節番  
細談合致スベク同氏ニテ承諾セバ其節  
直ニ金貨ヲ交付スベシ。尚又小田切ハ  
「ブランド」並ニ「ラモント」モ至極懇意ノ間柄  
ニ付此際同氏ヲ渡米セシメ「ブランド」等ト  
協力セシムルト最モ可然キカト思考ス。出来  
得バクンバ小田切ヲ華府會議ノ我全權隨

十月初  
負ニ加ハラレ 旬迄ニ著米セシムル様ノ申都右  
叶フマジキヤ。(十七日)  
在米大使ノ轉電アリ。

極秘

倫敦著

本省著

光緒二十八年八月

十九日第千一〇〇

三靖

内田外務大臣

林大使

第九五二號(極秘)

貴電第四七八號(閣下)

「アランド」ハ愛蘭地方旅行先ヨリ書面ヲ寄  
セ支那肉類ノ對スル米穀輿論モ最近幾  
分覺醒ノ様運ニ向ヒ居ルヤニ察セラルルモ華  
存會議ニ際シテ「アランド」派ハ依然日英  
同盟非繼續ノ運動ヲ試ムベキ付會議前  
渡米ノ上米穀輿論ガ同氏一派ノ議論ニ動カ  
サザル様其ノ素地ヲ作シ努力ヲ試ミタスナ

一月二十日頃迄ニ歸英ヲ必要トスル用件ヲ差  
控アルモ九月末ヨリ渡米ニ得ルキ都合ナリト  
申来レリ。右ノ次第ニテ本使歸任後未ダ  
面談ノ様ヲ得ルモ書面ニテ意ヲ傳タルモ本  
件性質上面白カラサル付同氏歸米ヲ待タ  
奉ルモ廿三日頃本使素訪ノ答ニ付其節要  
細談合致スベシ同氏ニテ承諾セバ其節  
直々ニ金貨ヲ交付スベシ。尚又小田切等  
「アランド」並ニ「ラモント」モ至極懇意ノ關係  
ニ付此際同氏ヲ渡米セシム「アランド」等ト  
協力セシムル最モ可然キカト思考ス。出来  
得バクシバ小田切ヲ華府會議ノ我全權隨

十月初  
負ニ加ヘラレ 旬迄ニ著米セヨル様ノ市都  
叶フヨジキヤ。(十七日)  
在米大使ノ轉電アリ。



電信課長

大臣

次官

任英

林大使

大臣

四八八

半電九五一号 末等一系 小田切 米

ノ義ニ 遠ニ 決定ニ 難キニ 付 ブレンド 三何

若コニ 下セ せん 控 致シ タレ ブレンド 何 等 也

モ 表 面 也 人 ニ 言 事 係 ナク 終 多 特 行 ノ 立 場

ノ 採 用 シ 允 事 一 然 一 右 在 米 大 使 一 研 究 也

外務省

六八

電	第	方	七	四	力	時	終
六	十	八	月	五	日	十	時

11920 (暗)

倫敦着

本者着

大正十年八月十九日

王靖

内田外務大臣

林大使

第九五二號(極秘)

貴電第四七八號(閣下)

コラントハ、愛蘭地方旅行先ヨリ書面ヲ寄  
セ、支那肉類ニ對スル米穀輿論モ最近幾  
分覺醒ノ様運ニ向ヒ居ルヤ、察セラルルモ華  
存會議ニ際シテハ、コラント一派ハ依然日英  
同盟非繼續ノ運動ヲ試ムベキ付會議前  
渡米ノ上米穀輿論が同氏一派ノ議論ニ動カ  
サレザル様其ノ素地ヲ作シ努力ヲ試ミタス。

一月二十日頃迄ニ歸英ヲ必要トスル用件ヲ差  
控アルモ九月末ヨリ渡米ニ得ルキ都合ナリト  
申来レリ。右ノ次第ニテ本使歸任後未ダ  
面談ノ様ヲ得ズ書面ニテ意ヲ傳タルモ本  
件性質上面白カラサルニ付同氏歸米ヲ待テ  
幸ヒ廿三四日頃本使來訪ノ答ニ付其節要  
細談合致スベク同氏ニテ承諾セバ其節  
直ニ金貨ヲ交付スベシ。尚又小田切ハ  
コラント並ニコラントモ至極懇意ノ向柄  
ニ付此際同氏ヲ渡米セシメコラント等ト  
協力セシムル最モ可然キカト思考ス。出来  
得バコラント小田切ヲ華存會議ノ我全權隨

十月初  
負ニ加ヘラレ、旬迄ニ著米セシム様、市都合  
叶フマジキヤ、(十七日)  
在米大使へ轉電セリ。

電信課長

大臣

次官 佐

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

五七



暗

倫敦發 本年分

主情

四四外務大臣

林 大使

第九七七號

往愛第九五一號ニ係リ

三月三日、ブランド、東京訪彼ハ先ツ、  
カシ居ル狀況、及シ各國共ニ、銳意努  
力シテ、對スル用意、若クハ施設、努力不  
充ナルモノ、アラズヤ、相當ノ物ヲ手ニ入レ日  
本ノ爲ニ、然、執筆セシムルコト、有効ト認

カラルト書入レニ付、本使ハ、帝國政府ニ於  
テ、其、實、自、選、シ、注、意、ス、ル、爲、ア、ル、ニ、ア、ラ、ル、ニ、行  
ハ、未、ダ、是、ノ、身、邊、ノ、兼、ス、ル、改、第、モ、有、リ  
大、使、館、ト、シ、テ、又、角、立、テ、宣、傳、行、  
動、ニ、出、ツ、ル、好、ミ、シ、カ、ラ、ル、場、合、ニ、少、カ、ラ、ズ  
同、ク、ニ、於、テ、書、見、アラ、バ、具、體、的、安、排、提、示  
方、ラ、希、望、ス、ル、旨、申、出、テ、ラ、ル、後、同、ク、未、  
レ、併、シ、及、ビ、日、英、同、盟、ノ、存、続、ハ、日、英、共、ニ  
希、望、ス、ル、ト、モ、ヒ、シ、テ、極、東、同、盟、ニ、關、シ  
日、英、ハ、本、國、ト、是、全、ク、解、解、ラ、作、ル、コ、ト  
係、テ、兩、國、ノ、利、益、ト、信、ス、此、點、ニ、於、キ  
本、使、ト、同、様、ノ、見、解、ヲ、持、ス、ト、考、ヘ、ラ、ル、

同ノ此際ノ返来ハ最希望スルト云ナリ  
ト諾シルニ同ノ出来得クハ九月二十日  
頃返来ノ途ニ上リタシト云ハ居ルトノ  
コトニ付本使ハ於テ今五百兩程ノ旅費  
並滞在費援助出来サルニアラヌト云ハ  
ルニ月余ノ老國往復ニ付左程迄ノ費  
用ヲ要スモヒクサリ乍ラ自右ニ敢テ余  
裕アル次第ニモアラバ必要費又  
本使ニ支辯ヲ願ヒ得シバ幸ナリト云ナリ  
依テ更ニ同ノ事ヲ聽キ前記金額  
以内ニ於テ相席ノ額ヲ支給スルノ金額  
ハ頁上ニテ申進スルニ在末大使ハ輕便ナリ

秘

倫敦發  
英有署  
一九一九年八月

三三〇百拾八六〇  
主情

田外務大臣

林 大使

第九七七號

往愛第九五一號之關係

早此日「ブランド」第訪彼ハ先ツ  
カシ居ル狀況ナル。相ラズ我  
先公たるモノアラズヤ相腐人物ヲ年ニ入日  
本ノ爲ニ不然孰筆ヤセルコト存効ト認

マラリト言ハルニ付本使ハ帝國政府ニ於  
テ其眞意ヲ注シ其ハ爲ラハルニアラザルニ何  
分未ダ是令身廻リ兼スル迄第モ存  
大使館トシテ其角立々テ宣傳種ノ行  
動ニ出ツルノ好コシカラザル場合全方カラス  
同クニ於テ其眞意アラバ具體的安否指示  
方ラ希聖スル旨申出テラル後同ノ返來  
ノ件ニ及ビ日英同盟ノ存續ハ日英共ニ  
希聖スルトコトニシテ極東問題ニ關シ  
日英カ老國トシテ其眞意ヲ解ラ作ルコト  
係テ兩國ノ利益ト信ズ此點ニ於テ  
本使ト同様ノ見解ヲ有スト考ヘラレ

同く此際ノ返来ハ最希望スルニ在リ  
ト諾シルニ同クハ出来得べくハ九月三日日  
頃返来ノ途ニ上リタシト事ハ在ルト  
トニ付本使ハ於テ今五百磅程ノ旅費  
並滞在費補助出来サルニアラト言ハ  
ルニ月余ノ未國往復ニ付左程迄ノ費  
用ヲ要スニモリサリ乍ラ自給ニ敢テ余  
裕アル也(第ニモアラレバ必要費ニ  
本使ニ支辨ヲ願ヒ得シバ幸ナリト言リ  
依テ更ニ同クノ事ヲ聽キ前記金額  
以内ハ於テ相席ノ額ヲ支給スルノ金額  
ハ更上ニテ申進スルニ在来本使ハ輕便ニ

電信課長

大臣

次官

注

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約



12362 暗

倫敦教大等自元日迄四〇〇

内田外務大臣

林大使

元九ハ二号極秘

往電元九七号ニ関シ、フランスドハ、態九有  
在費概算トシテ別ニ何等報酬ノ意ヲ含  
マズ事トシ、英貨一ノ磅同人ニ交付セリ  
其ノ節同人ハ自介、コレ迄已ニ日本政  
府ト何等特種ノ關係アルカニ噂セラルル  
耳ニセザルニ非ザルニ夫レハ噂スルモノ自由ニ

任ス事トシ、自介、個トシテ、極東問題ニ對  
シ、偶々日本政府ノ政策ニ幾分ノ了解ヲ  
有スルモノアル以外、何等ノ線外ヲ知ラ  
ル、通リナリ、又極東問題ニ関スル自介ノ意  
見ハ年来著書新聞其他ニ發表シ来リ  
已ニ世間ニ知ラレ居ル者ニテ、特ニ日本政府  
ノ特種ノ關係ニ依テ、其主張ヲ極力  
ガ知キ事、其キハ事情ヲ知ルモノ、良ク諒  
解シ居ルモノト信ジテ疑ハズ、今回米國行  
ノ最意ニ付テモ、極東問題ニ関スル米國側  
ノ蒙ラ路カントスルニ外ナラス、トカーネルハラス  
ノ如キスラ、最近「バブリックレツジャーナル」



(往電才ハ七五号)ニ於テ顧維鈞若クハ王正廷ノ輩ガ恰モヤンゲヤリオ、輿論ノ代表者タルガ如クニ言ヒ居レリ  
 (續ク)

電信課長



大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

12368 暗

倫敦發 本省着 大正十年八月四日

内田外務大臣 林大使

才九ハ二号(其ノ二)  
 斯ノ如キハ米國輿論一般ノ弊ニシテ顧  
 王正廷ノ自來ノ私見ヲ云爲スルモノニシテ其  
 背後ニ何等ノ勢力アリテ之ヲ代表  
 スルモノニ非サルハ米人等毫モ完附カサル處  
 ナリ右自分ノ立場ハ在華府日本大使ニ  
 於テモ諒解セラレン事ヲ希望ス尚ホカ  
 ハスノスヤードハ八月二十七日為英ノ答ニテ

華府會議ニシテ、オーストラリアメント問題ノミナ  
ハ再度渡米スヘキモ、同人ハ極東問題ニ格  
別ノ知識ヲ有シ、以テ自分滞米中或ハ  
タイリスノ通信ヲ依拠シテ受クル事アルベシ  
云々ト陳ヘタリ  
尚金員交付ノ件ハ嚴秘ノ取扱ヲ請フ  
在米大使ハ轉達セリ

極秘

倫敦發 大正十年八月十四日  
本海着

内田外務大臣

林大使

九月八日号極秘

往電九月七号号ニ関シテラントハ無九有  
二十四日渡米スル趣ニ付其ノ旅費並滞  
在費概算トシテ別ニ何等報酬ノ意ヲ含  
マズ事トシ英員一ノ磅同ノ交付セリ  
其ノ節同人ノ自介ハ コレ迄已ニ日本政  
府ト何等特種ノ關係アルカニ噂セルルハ  
耳ニセサルニ非ザルモ夫レハ噂スルモノ自介ハ

任ス事トシ自介ハ個トシテハ極東問題ニ対  
シ偶々日本政府ノ政策ニ幾分ノ了解ヲ  
有スルモナル以外何等ノ縁由ナシ知ラ  
ル通リナリ又極東問題ニ関スル自介ノ意  
見ハ年来著書新聞其他ニ發表シ来リ  
已ニ世間ニ知ラレ居ル者ニテ特ニ日本政府  
トノ特種ノ關係ニ依テ其主張ヲ極力  
カ知キ事ナキハ事情ヲ知ルモノ良ク諒  
解シ居ルモノト信ジテ疑ハズ今因米國行  
ノ發意ニ付テモ極東問題ニ関スル米國側  
ノ蒙ラ路カントスルシ外ナラスコカトネルハラス  
ノ如キ事ヲ最近パブリックレップレノメ

往電有ハ七五号ニ於テ願維鈞若クハ玉正  
建ノ輩ガ恰モヤンケヤリサ、輿論ノ代表者  
タルガ如クニ言ヒ居レリ  
(續ク)

REEL No. 1-0198

0051

倫敦發  
本海着  
大臣才身自  
天日石四〇〇  
主情

内田外務大臣  
林大快

才九八二号一頁二三

斯如キハ米國輿論一般ノ弊ニモ一顧ニ  
王ニ突ク自家ノ私見ヲ云為スルモノニシテ其  
ノ背後ニ何等纏テタル勢力アリテ之ヲ代表  
スルモノニ非サハ米人等亮々ト完附カサル處  
ナリ右自分ノ立場ハ在華府日本大使ニ  
於テモ諒解セラレン事ヲ希望ス尚ホカク  
ハ不ノスカード一八月三十日為英ノ答ニテ

華府會議ニシテ才スアコメント問題ノミナ  
ハ再度渡米スヘキモ同人ハ極東問題ニ格  
別ノ智識ヲ以テ自分滞米中或ハ  
タイハクニ通信ノ依頼ヲ受クル事アルベシ  
云ハト陳ベタリ  
尚金員交付ノ件ハ嚴秘ノ取扱ヲ請フ  
在米大使ハ轉達セリ